

あの夏の川で



本多 明

奥田みえこ 絵

あの川の橋に行ってみよう。

引越す前日、良平は駅前からバスに乗り、窓の外を眺めた。親しんだ店や街角がいくつも通り過ぎる。大倉川を渡るとなじみが薄くなるけれど、それもいいものだ。

最後だというだけで周りの景色がちがって見える。

あの橋で絵を描いたのは小学四年の夏だった。地図を見ていたときに、そこから自分の住んでいる所が見えるかどうか急に思い立ったのだ。橋はかなり高い所にあるから、きっと広い景色が見えるはずだ。

でも、実際に行ってみると何も見えなかった。見えるど